

2025年度

広畑あおぞら保育園 自己評価総括表

地域社会における保育施設として、その運営や保育内容について、自らの保育実践を振り返り、自己評価を行いましたので、その結果を以下の通り公表いたします。

また、本自己評価の結果を踏まえ、今後も更なる専門性の向上や保育実践の改善に努め、より一層質の高い保育の実践を目指してまいります。

評価方法		
保育士等（全職員）の自己評価	評価期間	2026年1月5日（月）～2月17日（火）
	実施方法	全職員に自己評価について趣旨を説明し自己評価を実施した。
保育施設の評価	評価日	2025年2月18日（水）
	実施方法	話し合いにより職場全体で共有し、保育施設の課題を明確化し、改善策を検討した。

項目ごとの評価	
保育理念	保育理念に基づき、子どもの声に耳を傾け、子どもたちのありのままの姿を受け止める保育実践に繋がった。また、子どもの主体的な活動について職員間で話し合い、保育計画を立て保育を進めることができた。
子どもの発達援助	子どもの姿を予想した各クラスの年間目標に向け、全職員で同じ方向性を持って、一人一人の子どもに寄り添い関わることに努めた。また、日々のミーティング等で子どものことをしっかり共有し、園全体で子どもの理解・適切な関わりについて共有した。
保護者に対する支援	保護者の話に傾聴し常に寄り添った関わりを続けることで、保護者の方から困っていることを相談してもらえるようになった。また、年間行事を通して日々の保育の成果・子どもの成長を見ていただく機会となるように内容の充実を図った。
保育を支える組織的基盤	様々な研修に積極的に参加し、職員のスキルアップに努めた。研修で得た知識を職員会議内で報告・共有することで、全職員の知識となり日々の保育に活かすことに繋がった。

総評
年度初めに、各クラスで掲げた年間目標を全職員で周知・共有することで協力体制が強化できた。ミーティングの時間を大切に、話し合い、課題に向けて職員一人一人が意識して努めることが安定した保育運営に繋がった。引き続き、安定した保育を継続しながら、子どもの発達段階に応じた手作り玩具を作成し、保育環境の見直しに努めたい。 また、保護者のニーズに寄り添い、親子が安心して通える園作りに取り組みたい。